

【教室確定・甲南大学】 第14回刑事法学フォーラムのご案内

無期刑受刑者の仮釈放の現状と課題

～拘禁刑時代に仮釈放のない丸特無期受刑者をどう処遇するのか？～

第103回日本刑法学会大会は、2026年5月30・31日の甲南大学で開催されます。恒例となった刑法学会前日の刑事法学フォーラムを5月29日(金) 18:00より、甲南大学で開催します。

刑事法学フォーラムは、刑事法に関心を持つ研究者および実務家が集まり、共に学び、自由闊達に議論する場です。

今回のテーマは、近年、終身化や高齢化が問題となっている「無期刑受刑者の仮釈放」です。報告者は、英国留学経験のある若手の仮釈放研究者、コメンテーターに情報公開や聴取調査の手法を用いている気鋭のジャーナリストをお招きし、ホットな議論をしたいと思います。

みなさん、奮ってご参加ください。

記

【日 時】 2026年5月29日(金)午後6時から午後8時30分

【会 場】 甲南大学岡本キャンパス5号館5-11教室

<https://www.konan-u.ac.jp/access/>

【企画の趣旨】 2026年1月、法務省の発表した無期刑の執行状況および仮釈放の運用状況のデータ(2024年末)によれば、無期刑の受刑者は1650人、新受刑者は11人、新仮釈放者は1人そして死亡者は32人でした。

今回は、2025年6月から施行された「新たな自由刑(拘禁刑)の時代」を踏まえ、1998年「丸特無期通達」に始まる厳罰主義の負の遺産を抱えた日本行刑の現状と課題を考えたいと思います。

【テーマ】「無期刑受刑者の仮釈放の現状と課題」

基調報告:戸田彩織(一橋大学法学研究科講師)

指定討論:木原育子(東京新聞社会部デスク)

一宮俊介(弁護士ドットコムニュース記者)

共同代表:石塚伸一/松宮孝明/水谷規男

お問合せ:一般社団法人刑事司法未来

ホームページ:<https://cjf.jp/> / メール:info@cjf.jp / 電話:03-3472-3396

【参考資料】

法務省「無期刑の執行状況及び無期受刑者に係る仮釈放の運用状況について」

(2026年1月) <https://www.moj.go.jp/content/001454557.pdf>

【登壇者略歴】

戸田彩織(一橋大学法学研究科講師) 2025年一橋大学法学研究科博士後期課程修了、博士(法学)「無期刑受刑者の仮釈放」 <https://hit-u.repo.nii.ac.jp/records/2060886>
(関連業績)「仮釈放判断における社会感情の是認をめぐる問題」(刑事立法研究会編『新時代の刑事拘禁法・処遇法:石塚伸一先生・赤池一将先生古稀祝賀論文集』(現代人文社、2025年、480頁以下)、「拘禁刑時代の施設内処遇(14)拘禁刑時代の仮釈放運用と施設内の行状」(『法律時報』第98巻1号、2026年、119~124頁);[英語]“A place for public concerns in parole decision making in Japan” *The Howard Journal of Crime and Justice*, 2024年3月
<https://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1111/hojo.12550>
(研究助成) JPS 科研費・研究活動スタート支援「無期刑・長期刑受刑者の仮釈放の理論研究—仮釈放と応報刑論の関係性」(2025~26年度);同・特別研究員助成費「無期刑受刑者の仮釈放の再考:日本と英国における展開の比較法的検討を通じて」(2021~23年度)

木原育子(東京新聞社会部記者) 社会福祉士、精神保健福祉士。特別報道部では福祉や精神医療の問題を中心に取材。アイヌ民族の差別問題でメディア・アンビシャス大賞受賞。著書『服罪—無期懲役判決を受けたある男の記録』(論創社、2024年)で日隅一雄・情報流通促進賞受賞。一時休職しバンコク留学。

(関連記事)「無期懲役が「事実上の終身刑」に 27年前の「マル特無期」通達が本紙に公開 当時の背景と見落とされた視点」(東京新聞 2025年7月8日)

<https://www.tokyo-np.co.jp/article/418865>

「受刑者自身も知らない「終身刑並みの無期懲役」「ゆるやかな死刑」へのブラックボックス…背景に検察の思惑」(同 2025年7月9日)<https://www.tokyo-np.co.jp/article/419113>

一宮俊介(弁護士ドットコムニュース編集部記者) 宮崎県生まれ、熊本大学法学部卒。毎日新聞記者を経て2024年2月より現職。少年事件、受刑者、警察・検察・裁判所・メディアの問題などを取材。

(関連記事)「生まれてくるべきじゃなかった:64年ぶりに外の世界に出た無期懲役囚、不意に流した涙」(2024年7月18日)https://www.bengo4.com/c_1009/n_17758/

「殺人を犯しても生き続けられる“無期懲役刑“:「本当はこの手で殺してやりたい」苦しみ続ける遺族」(2024年9月5日)https://www.bengo4.com/c_1009/n_17905/

「仮釈放認められず「もう出られない」、自暴自棄になる囚人も:無期懲役の「終身刑」化に危機感」(2024年9月6日)https://www.bengo4.com/c_1009/n_17906/

「“終身刑化”する無期懲役 2023年の仮釈放8人、獄死30人 無期囚「長い受刑生活を耐えるわずかな希望」(弁護士ドットコムニュース 2024年12月17日)

https://www.bengo4.com/c_18/n_18247/

「多くは獄死、“終わりなき刑”に向き合う無期懲役囚と刑務官 拘禁刑導入で残された矛盾」(2025年6月29日)https://www.bengo4.com/c_1009/n_19021/